慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「井筒俊彦と前嶋信次 - 日本におけるイスラーム研究の源流を探る」
Sub Title	Two great Japanese scholars of Islamic studies, Toshihiko Izutsu and Shinji Maejima : an inquiry into the origin and developments of Islamic studies in Japan by reconsidering their academic activities
Author	坂本, 勉(Sakamoto, Tsutomu)
Publisher	三田史学会
Publication year	2010
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.79, No.4 (2010. 12) ,p.81(421)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	シンポジウム
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20101200-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

シンポジウム

「井筒俊彦と前嶋信次―日本におけるイスラーム研究の源流を探る」

二〇〇九年六月二七日（土）に慶應義塾大学三田キャンパスで開かれた三田史学会総合部会では、イスラーム思想・歴史の研究、教育において戦後の学界をリードされた井筒俊彦、前嶋信次両先生を取り上げ、お二人の先学が日本におけるイスラーム研究のなかに残された足跡を辿り、そのお仕事がいかなる位置を占めるのか、歴史的に振り返るシンポジウムを企画、開催した。

当日は長谷部史彦（塾文学部教授）の司会のもと、坂本勉（塾文学部教授）、杉田英明（東京大学大学院総合文化研究科教授）がそれぞれ基調講演を行い、これに家島彦一（東京外国語大学名誉教授）がコメントするかたちで進められた。以下に掲載するのは、その時に行われた報告を発表の順序にしたがってまとめたものである。活字に起こすにあたっては、読みやすさを考慮して発表したものにそれぞれかなり手を入れてあるが、内容的にはシンポジウム当日の発言と大きく変わるものでないことを改めてお断りしておきたい。

（文責　坂本　勉）